

令和7年度第2学期終業式 式辞

本日、こうして2学期の終業式を迎えました。

2学期には、2年生にとって忘れられない思い出となったであろう修学旅行、全校生徒で盛り上がった体育祭など大きな行事がありました。特に、文化祭では、体育館が使用できないなどの制約がある中で、生徒会を中心に工夫を凝らして、皆さんのが「青春の1ページを彩って」いる姿が見られて、とてもうれしく思いました。3年生の中には、進路が決定した人も続々と出ました。もちろん、これから本番を迎える人もいます。現役生は最後の最後まで伸びます。体調には十分気を付けて本番に臨めるようにしてください。

さて、今年は10年ぶりに二人の日本人が同時に違う分野でノーベル賞に選ばされました。12月10日の授賞式の様子も報道されていましたが、生理学・医学賞を大阪大学坂口志文特任教授が、化学賞を京都大学北川進特別教授がそれぞれ受賞しました。授賞式から一夜明けた会見でお二人が語ったのは次世代の研究者への思いでした。そんなお二人が共通して大切にしている言葉があるそうです。それが、物事を成功させるための三つの要素を組み合わせた「運鈍根」です。「運」は幸運に恵まれること、「鈍」は周りに流されず鈍いくらいの粘り強さがあること、「根」は根気よく続けることを、それぞれ表しています。この言葉で、若い研究者や学生に研究に取り組む姿勢を伝えているそうです。

明治の実業家である古河市兵衛が言い始めたといわれるこの語呂合わせは辞書に載るほどになっています。「運鈍根」の考え方とは、研究に限らず様々な場面で役に立つ成功の秘訣だと本当にたくさん的人が受け止めているからでしょう。いつも言っている三つのRの一つ、resilienceを身に付け發揮するにもこの「運鈍根」はとても大事な要素だと思います。例えば受験など物事に取り組むとき、失敗をも糧にして鈍感なほどに粘り強く強い意志で継続して取り組みましょう。そして幸運は努力し続けた人に引き寄せられるものだと思います。ただ、残りの二つ、responsibilityとrespectでは根気強さは同じく必要だと思いますが、鈍感にはならないように。集団生活の中での責任感、他者への思いやりについては、ぜひ敏感であってほしいと願っています。

それでは、少し早い挨拶ですが、よいお年をお迎えください。3学期の始業式で、元気な笑顔の皆さんに再会できることを楽しみにしています。